

平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成 31年 3月 29日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	教授	氏名	助川たかね
研究課題	景観デザインの形成要素としての社会インフラの機能転換手法の研究					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	助川たかね	造形デザイン・教授	都市計画・経営	全体統括・実施	
研究実績の概要	分担者					
	<p>本研究の目的と概要</p> <p>本研究では、都市の社会インフラストラクチャ（以下、インフラ）の老朽化が急速に進む今日、①維持・整備、②産業遺構・観光資源化に続く第3の活用方法としての③機能・用途転換についての先進事例を調査、その実現に至る過程を検証し、都市の景観形成と経済効果という視点での転換手法を明らかにしモデル転換手法の提案につなげることを目的とした。国内に加え、国際コンペを経て進めている台湾・台南市および韓国・ソウル市の事例を調査し、国内での応用手法を提案した。</p> <p>本研究の社会的背景</p> <p>我国では、2020年の東京オリンピック開催に向けて、空港、道路、鉄道、橋梁に代表されるインフラの整備が進められている。一方で、1964年の東京オリンピックを契機に1960年代に整備された高速道路をはじめとする社会インフラが耐用年数である50年を次々に迎えている。「国土交通省によると、建設後50年たった道路や橋は2017年時点で全国の23%、33年には6割を超す見込み（日本経済新聞、2018年4月15日）」であり、当時の耐震性基準も考慮すると、倒壊や崩落といった危険性は現実のものとなりつつある。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績の概要</p>	<p>調査研究方法と体制</p> <p>機能転換の先進事例に関する事例調査として、米国で高架鉄道を空中公園に機能転換し高い経済効果を生んでいる『ハイライン』の手法については科研費研究の調査結果を活用した。新規調査事例としては、韓国的高速道路を空中公園に転換した『ソウル路7017』と、暗渠をもとの河川に戻した『清溪川』、台湾台南市の中華街を緑園道路に転換工事中の『台南アクシス』を主たる対象とした。ソウル路と台南アクシスはオランダの設計事務所 MVRDV が国際コンペで受注しているため、英語での情報入手が容易であった。台南アクシスは、当初は年度内に完成予定であったため3月の現地調査を計画したが、工期が大幅に遅れていたため、研究年度内に完成を見ることができず調査を完了できなかった。想定外の事態であり、次年度も引き続き調査を継続する必要が生じている。韓国では、ソウル路をはじめとする都市インフラ再生計画をソウル市が主導するかたちで進めていた。高い評価を受けている『清溪川』『ソウル路7017』『漢江ソウルの森』を中心に現地調査と聞き取り調査を実施した。なお、ソウル市担当者からの聞き取りの過程で『石油備蓄基地』再開発地区（当初、調査候補のひとつであった）が同じ部署での事業であり、日本での応用も見込めることがわかったため現地での調査対象に加えた。一連の事業を継続して、かつ同時進行で計画・実施しているソウル市公園・都市景観政策局の責任者への聞き取りでは、住民や地主、政財界の利害関係を数100回に及ぶ話し合いで調整しながらも、一旦方向性が出ると、今度は行政がトップダウンで実行してきた手法について現実的な意見を聞くことができた。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：ソウル駅前から続く高架道路の公園への用途転換</p> <p>右：石油備蓄タンクの文化施設への用途転換</p> </div> </div>
<p>成果資料目録</p>	<p>成果については、平成31年度 OPU フォーラムにおけるポスター発表を実施する。</p>